

碧南市 過去のモデル事業とその効果

平成30年度 ～ICFを療育に活用～

ICFを活用した療育支援事業

＜効果＞ ①意見交換の活発化、②支援計画の具体化、③支援者のスキル向上、④保護者の児との関係改善、⑤保護者の子育て姿勢の積極化

令和元年度 ～ICFを教育・福祉の場に活用～

ICFを活用した地域支援体制づくり(家庭、教育、福祉の連携)事業

＜効果＞ ①支援者のスキル向上、②家庭・教育・福祉の連携、③保護者支援、④地域の支援体制の充実

令和2年度 ～ICFを使いやすくするために～

＜内容と効果＞

- ①情報収集項目を絞り込んだコアセット版ICFシステムの活用⇒通常版と同等の効果を維持し労力軽減になった
- ②日々の支援記録をICFに直結させる工夫⇒少ない負担でICFシステムを活用しやすくなった
- ③ICFシステムを活用する事業所への費用支弁 ⇒ 1年間では効果は確認できなかった(今後も継続)

令和3年度 ～ICFの考え方の普及～

ICFシステムを盛り込んだ巡回支援の実施、保護者向けICF研修

＜効果＞ICFの観点による支援ポイントの理解が深まる ②ICFの観点による子どもの見方や関り方を理解し、関り方への見通しが持てつつある

令和4年度 ～

ICFの視点をを用いた巡回支援後、さらに網羅的な情報把握を要する困難ケースに二次的重点支援として「ICFシステムの活用」を展開することで、ICFシステムを地域の一般施策に組み込むことを目指す

① ICFの観点を取り入れた巡回支援(保育園・幼稚園)の実施

内容

巡回支援:事前情報シートを活用した検討会を実施

1内容:うまくいく(うまくいかない)要因の検討・解析。環境調整、本人視点について考える支援者が気になる子どもの行動の要因、支援方法等について検討する

2対象者:巡回を希望する保育園、幼稚園の加配保育士、担任、園長、主任等

計:延べ20園※1月末時点

3支援員:福祉課発達支援係 巡回支援専門員等

4時間:10時から14時(観察、聞き取り:1時間15分、検討会:1時間30分)

事前資料(事前情報シート)

内容:子どもと環境(場面・関わり)の理解、子どもの育ち環境、本人視点、成育歴、家族について

対象の園、児童クラブは巡回支援の7日前までに、事前情報シートを作成し発達支援係へ送付

※記入にあたり、事前研修を受けた園長、主任級の先生が、記入をサポート

子どもと環境(場面・関わり)の理解

	よさ・できること		気になること・苦手なこと	
	得意なことや 1人でできること	こんな場面や関わりだと できる	こんな場面や関わりだと できない	苦手さや 1人ではまだできないこと
記入の視点	～はできている ～はできている得意だ 〇〇はよかった	こんな場所や時ならできる こんな人や物とならできる このように関わればできる その他、子どもの育ちにプラスとなる子など	こんな場所や時には、できない こんな人や物だとしない、できない このように関わるとしない、できない	～はまだ難しい ～は苦手だ 〇〇なことが気になる
感覚・運動	ここに書くことは・・・見る・聞く・触るなど五感に関すること(気づきにくい、強すぎる、過敏、鈍感など)や運動(身体の使い方)			
	得意なことや一人でできること	こんな場面や関わりならできる	こんな場面や関わりだとできない	苦手さや一人ではまだできないこと
遊び・表現	ここに書くことは・・・好きな遊びや苦手な遊び、運動遊びや制作遊び、考える遊びや学習につながる遊びなど			
	得意なことや一人でできること	こんな場面や関わりならできる	こんな場面や関わりだとできない	苦手さや一人ではまだできないこと
言葉・意思決定	ここに書くことは・・・「ことば」の理解や伝達の様子、問題解決や意思決定することなど			
	得意なことや一人でできること	こんな場面や関わりならできる	こんな場面や関わりだとできない	苦手さや一人ではまだできないこと
健康面・生活面	ここに書くことは・・・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、生活時間など、生活全般に関すること			
	得意なことや一人でできること	こんな場面や関わりならできる	こんな場面や関わりだとできない	苦手さや一人ではまだできないこと
場面・ルール 人間関係や ルールの理解	ここに書くことは・・・ルールの理解や場面にあった行動、大人や友達とのかかわりなど			
	得意なことや一人でできること	こんな場面や関わりならできる	こんな場面や関わりだとできない	苦手さや一人ではまだできないこと

子どもの育ち環境はどうなっているか？

環境	ここに書くことは：本児にとって(使いやすい／使いにくい)遊び用具、(快適／不快な)自然環境、(プラス／マイナスな)家庭環境		
	遊び用具	自然環境	家庭環境
	(本児にとって使いやすいもの)	(本児にとって快適なもの)	(本児の育ちにプラスになること)
	(本児にとって使いにくいもの)	(本児にとって不快なもの)	(本児の育ちにマイナスになること)

子どもは「いま」をどう感じているか？ 「いま」につながる育ちはどうだったか？

本人視点	本児の視点に立って、本児がどんなふうに困っていて、どんなふうに感じているかを記入
生育歴・既往歴	ここに書くことは・・・これまでの発達状況や乳幼児健診での結果や指摘などを、把握している範囲で記入

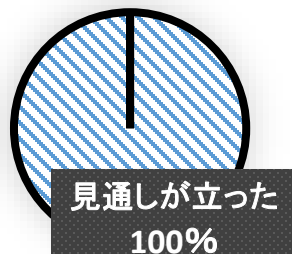
家族について

保護者情報			
家族構成図	<ジェノグラム>		<特記事項>
保護者の本人理解と支援状況	本児の姿の 受け止め方	保護者	その他の家族
		(母)	
	本児への 関わり方	(父)	
		(母)	
		(父)	

巡回支援の効果検証 その1(アンケート結果から)

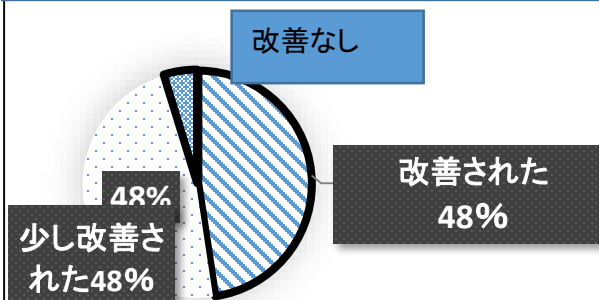
N=21(20園中、1園は2人回答)

巡回支援約3週間後：支援者の
子どもの関わり方への見通し



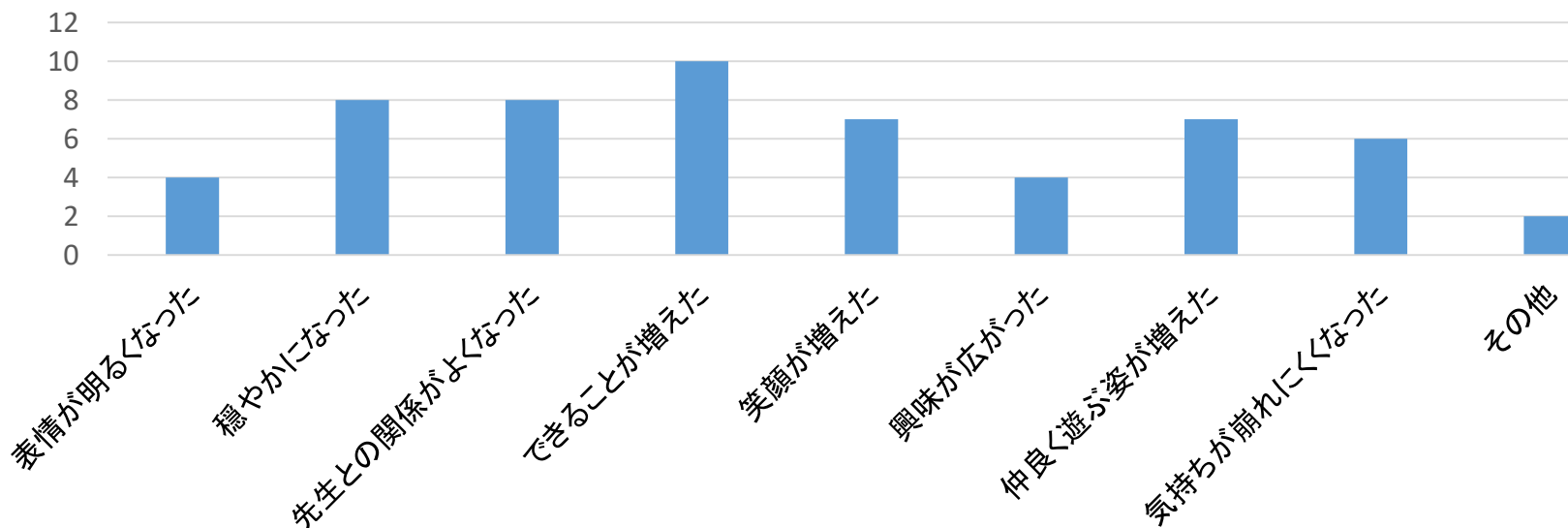
N=21(20園中
1園は2人が回答)

巡回支援約3週間後：相談内
容は改善されましたか？

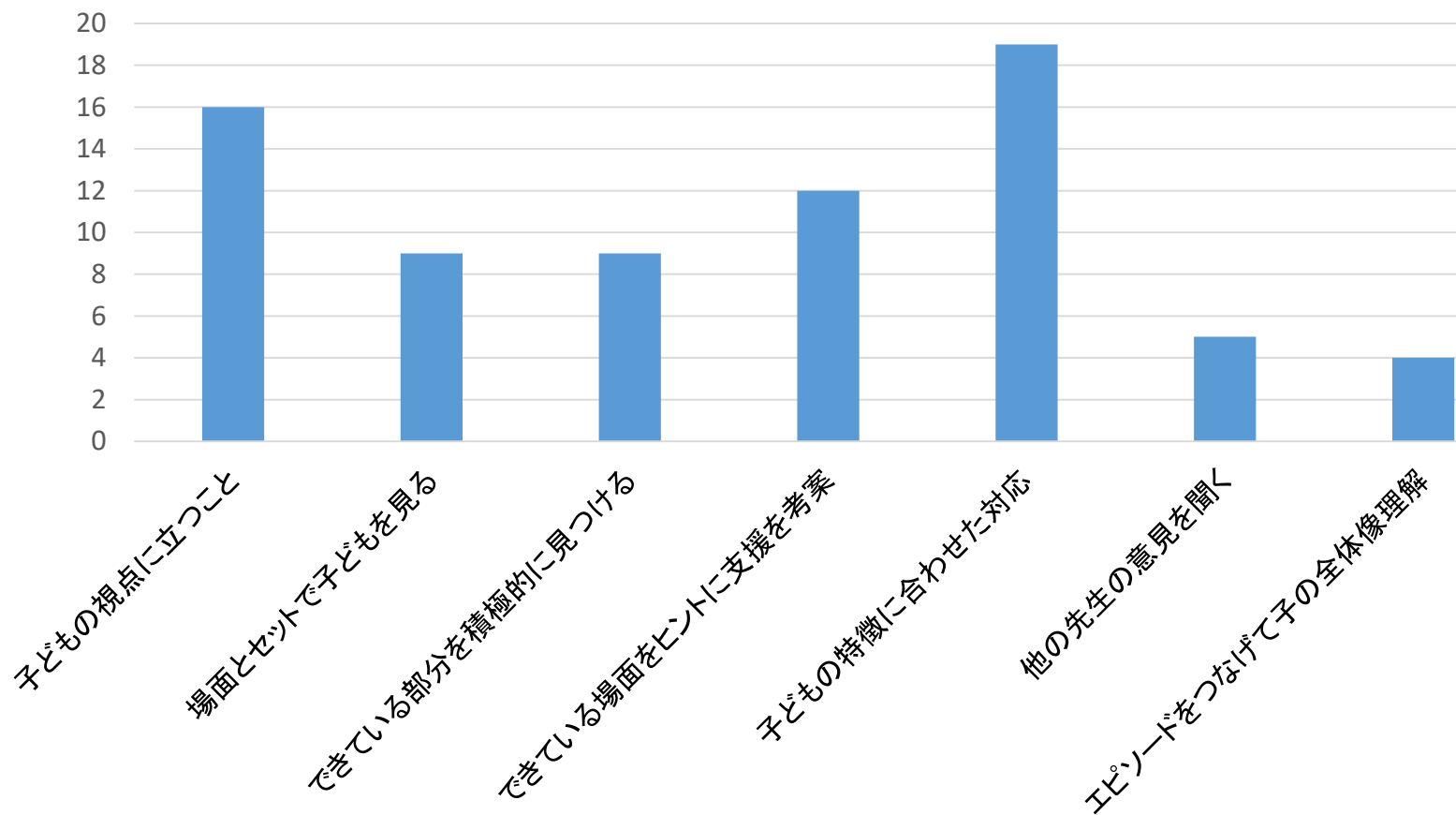


関わり方
の見通し
が持て、
相談内容
の改善が
された。

巡回支援約3週間後⇒対象児により変化がみられた(19名)「よい変化」の内容



巡回支援約3週間後：支援者が巡回支援後に取り入れるようになった事 (複数回答)



巡回支援の効果検証 その2(子どもの状況と巡回支援の限界)

巡回支援実施対象児20名の状況を確認

- ・年齢、性別、支援者の相談内容、子どもの苦手さ、関わり等を確認



- ・巡回支援では解決できなかった先生：対象児にことばの理解、表出に遅れがなかった。

(他の対象児は、全員ことばの理解、表出に遅れがあった)



- ・通常の支援では困り感の持つ支援者に対しては、巡回支援での対応で支援の見通しや相談事の改善ができる。
- ・しかし、言葉の理解、表出に遅れはないが、発達にかなりのアンバランスさがある場合などには、巡回支援だけでは相談内容が解決されにくい。⇒ ICFコアセットを用いて網羅的に情報収集し、環境と本人の苦手さを明らかにし、さらに本人の強みを用いて支援を考える方法を用いることが必要である。

ICFシステム活用前後支援計画内容の検証 企画推進委員からの評価

設問		具体的な支援内容の記載について							
選択肢	>>	1 : 強く思う	2 : 思う	3 : 少し思う	4 : あまり思わない	5 : 思わない	6 : まったく思わない	中央値	回答数
		度数							
Q1)	活用前と比べて活用後の記載内容は、より具体的になったと思うか？	8	3	0	0	0	0	1	11
Q2)	活用前と比べて活用後の記載内容は、それに基づいて支援者が同じ内容を共通に思い描けるものになったと思うか？	6	4	1	0	0	0	1	11
Q3)	活用前と比べて活用後の記載内容は、生活適応の改善により役立つものになったと思うか？	6	5	0	0	0	0	1	11
Q4)	活用前と比べて活用後の記載内容は、支援の効果を評価しやすい内容になったと思うか？	3	7	1	0	0	0	2	11

ICFシステムを活用したことで支援計画の記載が具体的になり、生活の改善に役立つものになり、評価しやすい内容となったとの評価であった。

ICFフォローアップ研修の検証

参加者アンケートより

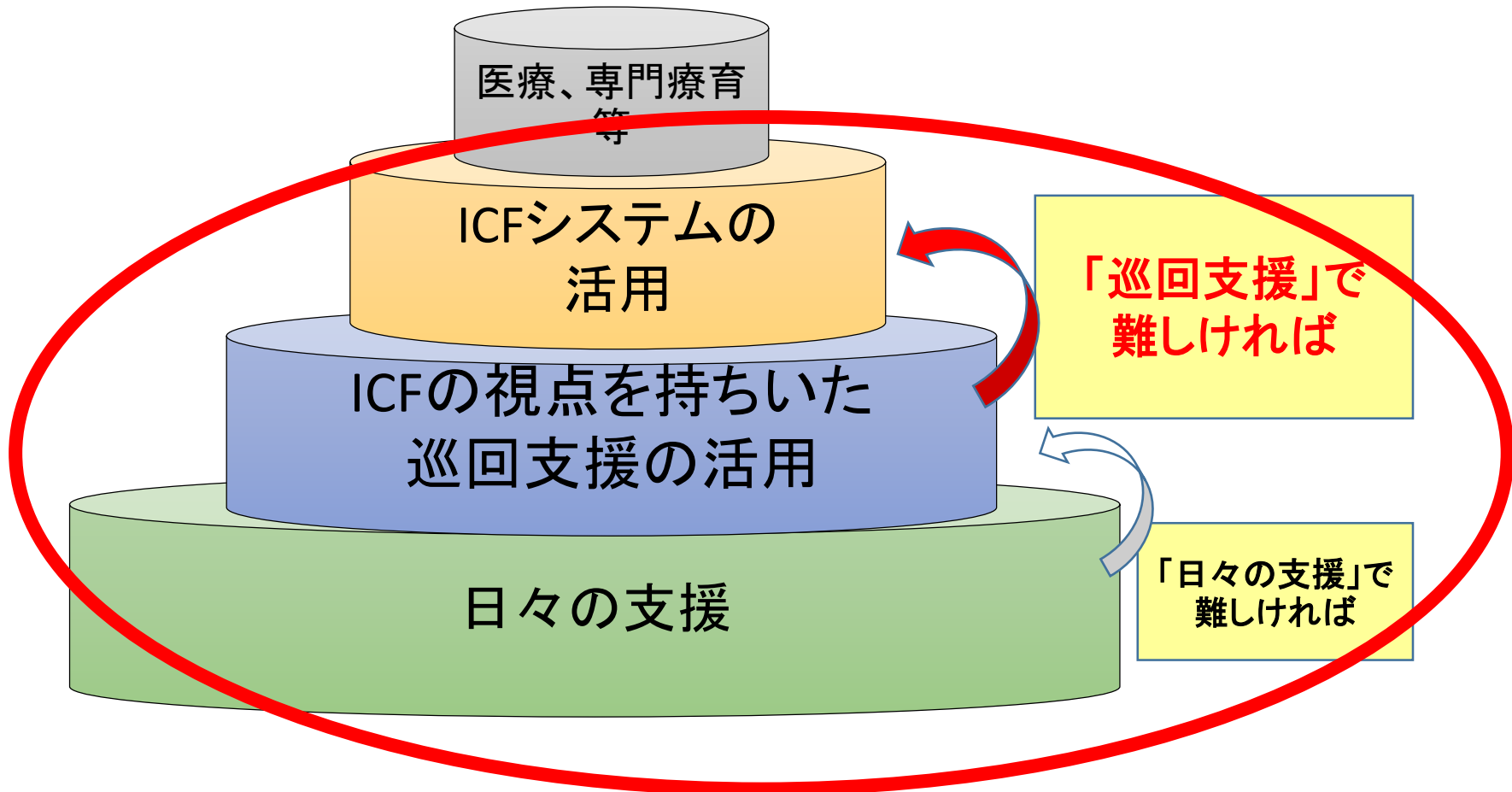
設問 1		情報収集編										
選択肢	>>	1 : そう思う	2 : 少し思う					中央値	回答数	肯定回答の割合		
		3 : あまりそう思わない	4 : 思わない	度数								
ICFシートの情報把握について、どのように記入すればよいか、項目の意味をどのように理解すればよいかなど、わからないことがあった						5	8	2	0	2	15	86.7%
フォローアップ研修に参加して、補足情報欄への記入の仕方（困難性の書き方、支援の工夫や支援になる場面や環境の見つけ方、支援の効果の書き方）が、研修に参加する前より、わかるようになった						7	8	0	0	2	15	100.0%
わかりづらかったが項目の情報収集の仕方が、研修に参加する前より、わかるようになった。						7	6	1	0	1	14	92.9%
設問 2		支援会議編（回答者：支援会議資料作成者）										
選択肢	>>	1 : そう思う	2 : 少し思う					中央値	回答数	肯定回答の割合		
		3 : あまりそう思わない	4 : 思わない	度数								
（フォローアップ研修前）支援会議資料（支援方法等の考案）の作成について、(1)支援対象項目をどう選択するか、(2)発達段階や課題の書き方、(4)具体的な手がかりや支援の方向性の書き方など、わからないことがあった。						4	7	1	0	2	12	91.7%
フォローアップ研修に参加して、支援の方向性の書き方が、研修に参加する前よりもわかるようになった。						6	6	0	0	1	12	100.0%
設問 3		全体を通して（回答者:全員）										
選択肢	>>	1 : そう思う	2 : 少し思う					中央値	回答数	肯定回答の割合		
		3 : あまりそう思わない	4 : 思わない	度数								
I C Fシステムの活用後のフォローアップ研修は、I C Fシステムの活用・普及に有効だと思いますか						13	1	0	0	1	14	100.0%

ICF保護者向け研修の検証

参加者アンケートより

選択肢 >> 1 : はい 2 : いいえ		1	2	中央値	回答数
研修会参加後、お子さんへの接し方や関わり方に新しい気づきが得られましたか？		11	0	1	11
研修会で学んだ内容から、子どものよさにつながる子育てのやり方が見つかりましたか？		10	0	1	10
選択肢 >> 1 : はい 2 : いいえ		1	2	中央値	回答数
第1回（9且）の研修会参加後、ご自身の日頃の子育てに取り入れるようにした事がありましたか。		11	0	1	11
	日ごろの子育てに取り入れるようになった事の内容				
	子どものよさを見つけること	9			
	子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること	7			
	環境や場面とセットで子どもを見ること	6			
	できている部分やできている場면을積極的に見つけること	9			
	できている場면을ヒントに環境を整えたり、関り方を工夫すること	4			
	他の保護者の話を聞いたり、話を聞いてもらうこと	2			

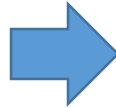
ICFシステムを一般施策に盛り込む ～階層的地域支援体制の構築～



ICFシステム普及のためには

～これまでのモデル事業の結果より～

①研修等で障害の
“パラダイシフト”

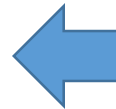


②ICFシステムを実際に使う（または見学
参加）機会を得て効果を実感する



- ・知識を得る：研修会
- ・現場で理解：ICF視点の巡回支援

③日常業務の中に組み込める手段の取得
（日々の記録、ICFコアセット活用）



⑤効果を感じたタイミン
グで、トップダウンによ
る活用推進

④各職場にICFシステムについてOJTでき
る人を養成